

案 1-1

基本目標	Ⅱ	個別目標	1	経常事業	男性の育児・介護サポート企業認定モデル事業
補助事業	4	男性の育児・介護サポート企業認定モデル事業			事業開始 平成21年度
補助の目的	区内中小事業者に対して、男性が育児休業・介護休暇を取得しやすい職場環境づくりを支援します。				
補助の概要	サポート企業として登録した事業者のうち、要件を満たす事実が発生した場合、1社につき最大3回まで、30万円を上限に奨励金を事業者に支給します。				
根拠	平成21年度新宿区男性の育児・介護サポート企業認定要綱 平成21年度新宿区男性の育児・介護サポート奨励金支給要綱				

内部評価 (年度評価)	平成19年度	平成20年度	平成21年度
			B 目標どおりの成果
内部評価 (総合評価) (平成19～21年)	評価	評価理由	
	☆☆ 効果を発揮している	奨励金の支給件数は目標を下回っていますが、区内中小事業者における育児休業等を取得しやすい職場環境づくりの支援および、23区初の先駆的な試みとして、区内事業者における男性の育児休業等取得に対する啓発にもつながったため評価できます。	
内部評価 に対する 外部評価	評価結果	評価の理由	
	B 実施内容・方法に見直し、検証が必要	<p>23区初の試みという点は評価できるが、補助件数が目標をかなり下回っているので事業の周知方法を工夫するとともに、さらなる事業推進のため、計画事業(ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進)との連携を強化する必要がある。</p> <p>また、男性従業員の育児介護休業取得が進まない理由としては、就業規則、職場の雰囲気、労使の意識不足のほか、その時々経済状況に左右されるなどが考えられる。これらの分析が必要ではないか。</p>	
【4つの視点への意見】			
①役割分担 区の見直しとして、事業の周知や企業へ勧奨することにより、認証企業を増やす姿勢は評価できる。			
④目的の達成状況 改正育児・介護休業法の施行により、男性の育児・介護休業取得促進に向けた法整備も進んでおり、今後の進捗状況を見極めていく必要がある。平成21年度の補助件数は低いですが、新しく開始した事業であり、法改正を踏まえた今後の取り組みに期待する。			

案 1-2

基本目標	Ⅱ	個別目標	2	経常事業	プレイパーク活動の推進
補助事業	5	プレイパーク活動の推進			事業開始 平成16年度
補助の目的	新宿区内の公園等において、プレイパーク活動及びプレイパーク活動の啓発を行う事業を実施する団体の活動に係る経費を助成し、屋外で児童が安心して遊べる環境を確保し、児童の責任に基づく自主的な遊びを支援することを目的としています。				
補助の概要	プレイパーク活動及びプレイパーク活動の啓発を行う団体の活動経費を助成します。				
根拠	平成21年度新宿区プレイパーク活動助成要綱				

新宿区補助金等 審査委員会答申 (平成17年3月)	答申評価	意見
	B 実施内容・方法に見直し・検証が必要	安全面等色々と配慮する必要があるが、事業の趣旨としては面白い点がある。実績を見て、将来展望を行うべきである。
答申を踏まえた 区の取組み状況	見直し内容	
	子どもの外遊び・居場所づくりを積極的に推進し、子どもの自主性、創造性、社会性、協調性等を養うために、地域の大人とも協力しながら、子どもたちの健全な育成を図っていくことを目的とし、区内の屋外での場所を活用したプレイパーク等の事業に対して公募制により助成することとしました。	

内部評価 (年度評価)	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	B 目標どおりの成果	B 目標どおりの成果	B 目標どおりの成果
内部評価 (総合評価) (平成19～21年)	評価	評価理由	
	☆☆ 効果を発揮している	プレイパーク活動が、児童館や放課後子どもひろばとは違う体験ができる居場所として活用されているためです。	
内部評価 に対する 外部評価	評価結果	評価の理由	
	A 概ね問題がない	「子どもの育ち、自立を地域でしっかり応援するまち」という個別目標にぴったりだった事業内容である。協働の視点からも理想的な運営で評価できる。	

**【4つの視点への意見】**

②目的の妥当性  
子どもの発達課題を考えると、野外遊びは極めて重要であり目的は的確と評価できる。

③効率性・代替手段  
子どもたちが火や水を使った体験活動できる場が区内には少ない。  
子どもの居場所として高い評価ができる。

**【協働の視点の意見】**  
区の財政支援を受け、子どもたちが体験活動を享受できるなど、協働事業として成立している。

**【その他の意見】**  
プレイリーダーの養成をより強化することが望まれる。

案 2-1

基本目標	Ⅱ	個別目標	1	経常事業	男性の育児・介護サポート企業認定モデル事業
補助事業	4	男性の育児・介護サポート企業認定モデル事業			事業開始 平成21年度
補助の目的	区内中小事業者に対して、男性が育児休業・介護休暇を取得しやすい職場環境づくりを支援します。				
補助の概要	サポート企業として登録した事業者のうち、要件を満たす事実が発生した場合、1社につき最大3回まで、30万円を上限に奨励金を事業者に支給します。				
根拠	平成21年度新宿区男性の育児・介護サポート企業認定要綱 平成21年度新宿区男性の育児・介護サポート奨励金支給要綱				

内部評価	総合評価	評価理由
内部評価 (3年間を通しての評価) (平成19～21年)	☆☆ 効果を発揮している	奨励金の支給件数は目標を下回っていますが、区内中小事業者における育児休業等を取得しやすい職場環境づくりの支援および、23区初の先駆的な試みとして、区内事業者における男性の育児休業等取得に対する啓発にもつながったため評価できます。
内部評価に対する外部評価	評価結果	評価の理由
	B 実施内容・方法に見直し、検証が必要	<p>23区初の試みという点は評価できるが、補助件数が目標をかなり下回っているため、事業の周知方法を工夫するとともに、さらなる事業推進のため、計画事業(ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進)との連携を強化する必要がある。</p> <p>また、男性従業員の育児介護休業取得が進まない理由としては、就業規則、職場の雰囲気、労使の意識不足のほか、その時々々の経済状況に左右されるなどが考えられる。これらの分析が必要ではないか。</p>
<p><b>【4つの視点への意見】</b></p> <p>①役割分担 区の取組みとして、事業の周知や企業へ勧奨することにより、認証企業を増やす姿勢は評価できる。</p> <p>④目的の達成状況 改正育児・介護休業法の施行により、男性の育児・介護休業取得促進に向けた法整備も進んでおり、今後の進捗状況を見極めていく必要がある。平成21年度の補助件数は低いが、新しく開始した事業であり、法改正を踏まえた今後の取り組みに期待する。</p>		

案 2-2

基本目標	Ⅱ	個別目標	2	経常事業	プレイパーク活動の推進
補助事業	5	プレイパーク活動の推進			事業開始 平成16年度
補助の目的	新宿区内の公園等において、プレイパーク活動及びプレイパーク活動の啓発を行う事業を実施する団体の活動に係る経費を助成し、屋外で児童が安心して遊べる環境を確保し、児童の責任に基づく自主的な遊びを支援することを目的としています。				
補助の概要	プレイパーク活動及びプレイパーク活動の啓発を行う団体の活動経費を助成します。				
根拠	平成21年度新宿区プレイパーク活動助成要綱				

	答申評価	意見
新宿区補助金等審査委員会答申 (平成17年3月)	B 実施内容・方法に見直し・検証が必要	安全面等色々と配慮する必要があるが、事業の趣旨としては面白い点がある。実績を見て、将来展望を行うべきである。
答申を踏まえた区の取組み状況	見直し内容	
	子どもの外遊び・居場所づくりを積極的に推進し、子どもの自主性、創造性、社会性、協調性等を養うために、地域の大人とも協力しながら、子どもたちの健全な育成を図っていくことを目的とし、区内の屋外での場所を活用したプレイパーク等の事業に対して公募制により助成することとしました。	

	総合評価	評価理由
内部評価 (3年間を通じた評価) (平成19～21年)	☆☆ 効果を発揮している	プレイパーク活動が、児童館や放課後子どもひろばとは違う体験ができる居場所として活用されているためです。

	評価結果	評価の理由
内部評価に対する外部評価	A 概ね問題がない	「子どもの育ち、自立を地域でしっかり応援するまち」という個別目標にぴったりだった事業内容である。協働の視点からも理想的な運営で評価できる。

**【4つの視点への意見】**

②目的の妥当性  
子どもの発達課題を考えると、野外遊びは極めて重要であり目的は的確と評価できる。

③効率性・代替手段  
子どもたちが火や水を使った体験活動できる場が区内には少ない。  
子どもの居場所として高い評価ができる。

**【協働の視点の意見】**  
区の財政支援を受け、子どもたちが体験活動を享受できるなど、協働事業として成立している。

**【その他の意見】**  
プレイリーダーの養成をより強化することが望まれる。

案 3-1

基本目標	Ⅱ	個別目標	1	経常事業	男性の育児・介護サポート企業認定モデル事業
補助事業	4	男性の育児・介護サポート企業認定モデル事業			事業開始 平成21年度
補助の目的	区内中小事業者に対して、男性が育児休業・介護休暇を取得しやすい職場環境づくりを支援します。				
補助の概要	サポート企業として登録した事業者のうち、要件を満たす事実が発生した場合、1社につき最大3回まで、30万円を上限に奨励金を事業者に支給します。				
根拠	平成21年度新宿区男性の育児・介護サポート企業認定要綱 平成21年度新宿区男性の育児・介護サポート奨励金支給要綱				

【内部評価の状況】

年度別評価の状況			3年間を振り返った総合評価	
19年度	20年度	21年度	評価	評価理由
B目標どおり	B目標どおり	B目標どおり	☆☆ 効果を発揮している	奨励金の支給件数は目標を下回っていますが、区内中小事業者における育児休業等を取得しやすい職場環境づくりの支援および、23区初の先駆的な試みとして、区内事業者における男性の育児休業等取得に対する啓発にもつながったため評価できます。

【内部評価に対する外部評価結果】

外部評価結果	評価の理由
B 実施内容・方法に見直し、検証が必要	23区初の試みという点は評価できるが、補助件数が目標をかなり下回っているため事業の周知方法を工夫するとともに、さらなる事業推進のため、計画事業(ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進)との連携を強化する必要がある。 また、男性従業員の育児介護休業取得が進まない理由としては、就業規則、職場の雰囲気、労使の意識不足のほか、その時々経済状況に左右されるなどが考えられる。これらの分析が必要ではないか。

【4つの視点への意見】

①役割分担

区の出組みとして、事業の周知や企業へ勧奨することにより、認証企業を増やす姿勢は評価できる。

④目的の達成状況

改正育児・介護休業法の施行により、男性の育児・介護休業取得促進に向けた法整備も進んでおり、今後の進捗状況を見極めていく必要がある。平成21年度の補助件数は低いですが、新しく開始した事業であり、法改正を踏まえた今後の取り組みに期待する。

案 3-2

基本目標	Ⅱ	個別目標	2	経常事業	プレイパーク活動の推進
補助事業	5	プレイパーク活動の推進			事業開始 平成16年度
補助の目的	新宿区内の公園等において、プレイパーク活動及びプレイパーク活動の啓発を行う事業を実施する団体の活動に係る経費を助成し、屋外で児童が安心して遊べる環境を確保し、児童の責任に基づく自主的な遊びを支援することを目的としています。				
補助の概要	プレイパーク活動及びプレイパーク活動の啓発を行う団体の活動経費を助成します。				
根拠	平成21年度新宿区プレイパーク活動助成要綱				

【新宿区補助金等審査委員会答申(平成17年3月)と取組み状況】

答申評価	意見
B 実施内容・方法に見直し・検証が必要	安全面等色々と配慮する必要があるが、事業の趣旨としては面白い点がある。実績を見て、将来展望を行うべきである。
<b>答申を踏まえた区取組み状況(見直し内容)</b>	
<p>子どもの外遊び・居場所づくりを積極的に推進し、子どもの自主性、創造性、社会性、協調性等を養うために、地域の大人とも協力しながら、子どもたちの健全な育成を図っていくことを目的とし、区内の屋外での場所を活用したプレイパーク等の事業に対して公募制により助成することとしました。</p>	

【内部評価の状況】

年度別評価の状況			3年間を振り返った総合評価	
19年度	20年度	21年度	評価	評価理由
B目標 どおり	B目標 どおり	B目標 どおり	☆☆ 効果を発揮している	プレイパーク活動が、児童館や放課後子どもひろばとは違う体験ができる居場所として活用されているためです。

【内部評価に対する外部評価結果】

外部評価結果	評価の理由
A 概ね問題がない	「子どもの育ち、自立を地域でしっかり応援するまち」という個別目標にぴったりかなった事業内容である。協働の視点からも理想的な運営で評価できる。

【4つの視点への意見】

- ② 目的の妥当性  
子どもの発達課題を考えると、野外遊びは極めて重要であり目的は的確と評価できる。
- ③ 効率性・代替手段  
子どもたちが火や水を使った体験活動できる場が区内には少ない。  
子どもの居場所として高い評価ができる。

【協働の視点の意見】

区の財政支援を受け、子どもたちが体験活動を享受できるなど、協働事業として成立している。

【その他の意見】

プレイリーダーの養成をより強化することが望まれる。